

研究室紹介



福島支部キャラクター
「しびしび君」

国立研究開発法人 国立環境研究所 福島支部

● 福島支部について

国立環境研究所については多くの皆さんがご存じでしょう。では、福島支部のことは?今回は福島支部についてご紹介します。

国立環境研究所では、東日本大震災の直後から、環境中における放射性物質の動態解明と将来予測、ヒトへの被ばく量解析及び生物・生態系に対する影響に関する研究と、災害廃棄物や放射性物質に汚染された廃棄物の適切な管理、処理・処分方法に関する研究を進めてきました。現在は、これらを「環境回復研究プログラム」として統合し、研究を行っています。さらに、被災地の持続可能なグリーン復興を支援することを目的とした「環境創生研究プログラム」と、東日本大震災の教訓をもとに将来の災害に環境面から備えることを目的とした「災害環境マネジメント研究プログラム」を併せた3つの研究プログラムを「災害環境研究プログラム」として実施しています。

福島支部は、この災害環境研究を進めるための現地拠点として、平成28年4月に福島県三春町にある福島県環境創造センター内に開設されました。支部には20名の職員(研究系15名、事務系5名)が常駐しており、つくば本部の兼務者を合わせるなど60名程度の研究系職員がこの研究に関わっています。環境創造センターでは、福島県と日本原子力研究開発機構とともに研究活動などをしており、これらの組織及びつくば本部とも連携して研究を展開し、被災地の環境回復と復興を研究面・技術面で支援するとともに、将来起こりうる災害に環境面から備える技術・社会システムの構築に貢献していくことを目指しています。

● 日々の仕事など

福島支部は国立環境研究所の「災害環境研究プログラム」の現地拠点として位置付けられているため、ラボでの実験に留まらず、福島県内での現地調査の拠点として機能しているとともに、放射性物質で汚染された廃棄物の中間貯蔵に関する試験なども行っています。特に後者については実際の中間貯蔵施設を模した、ライシメーターが設置されており、施設からの放射性物質などの溶出パターンの模擬試験を行う事が出来ます。また、分析機器類も放射線測定など災害環境研究に特化した機器が集約されており、効率よく研究を進められるような設計になっています。

日常的な研究業務はつくば本部にいた時とあまり変わりませんが、大きく異なるのは見学対応についてです。環境創造センターのオープン後まだ日が浅い事もあり、各方面からの見学が頻繁にあります。放射性物質の取り扱いなどに対する認識は見学者によって様々なので、対応に苦労する事もありますが、データに基づいた正確な情報発信を心がけるようにして対応しています。

研究からは少し離れますが、福島支部では職員同士の交流にも積極的に取り組んでいます。7月には地元の施設でバーベキュー、11月には東北らしい行事という事で芋煮会を開催しました。これらの行事以外にも日常的な交流を図るとともに、環境創造センター内外の様々なイベントにも積極的に参加し、また、地域にとけ込むための活動も行っています。このように、福島支部ではつくば本部とはまた違った形で研究や日常生活を送っています。

(福島支部 玉置雅紀)

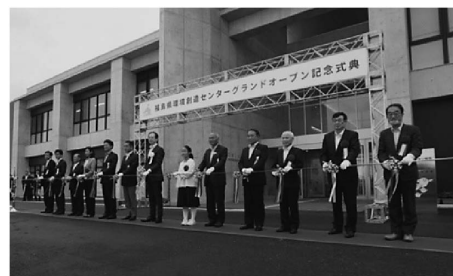
研究総括から一言

福島支部で進めている災害環境研究の取りまとめを担当している大原利眞です。環境放射能汚染は現在、陸域と沿岸域で最も問題となっていますが、大気環境においても未知の事象や未解決の課題が多くあり、私達は大気環境学会放射能動態分科会とも連携して研究に取り組んでいます。春になると桜、桃、梅が同時に開花することから名付けられた「三春」、桃源郷のような地にある福島支部に是非一度、お越し下さい。

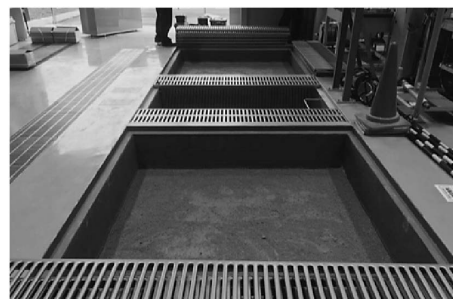
福島支部の住所とウェブサイト 福島県田村郡三春町深作10-2
福島県環境創造センター研究棟内
<http://www.nies.go.jp/sosiki/fukushima.html>
福島県環境創造センターのウェブサイト <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/298/>



平成28年4月に環境創造センター内に開所した研究棟。福島支部はここで日本原子力研究開発機構とともに研究を行っています。奥には福島県の入る本館、さらにその奥には情報発信・研修・教育を行う交流棟(コミュニケーション福島)があります。



平成28年7月に行われた環境創造センターのグランドオープン記念式典の様子。



中間貯蔵施設を模したライシメーター。



ハイボリュームエアサンプラーによる大気中の粉じんの捕集(飯館村にて)。